

- 観光地を形成するための資金が不足し、観光地域づくりが停滞する中、**DMOが投融資の仕組みづくり**に注力
- 「せとうち観光活性化ファンド」および「せとうち観光サステナブルファンド」により、投資者や地域金融機関を呼び込み、瀬戸内地域の**観光振興に寄与する事業への投資**が行われている

取組事例

■せとうちDMO

【観光庁による登録DMOである、（一社）せとうち観光推進機構のマネジメントエリア：

兵庫県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県】

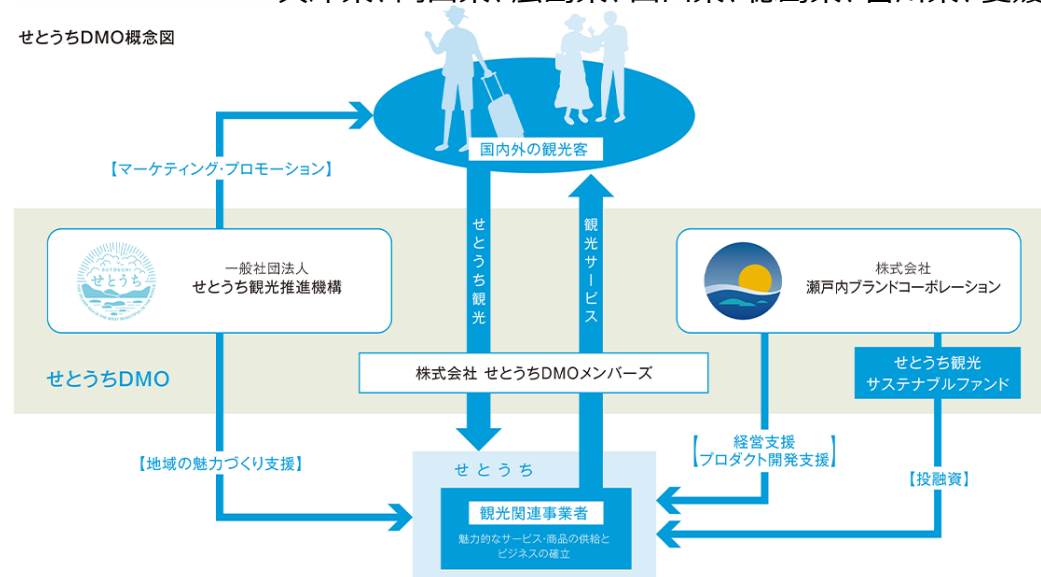
- 観光地を形成するためには多額な資金が必要となるものの、需要が安定せず長期間を有するため、**投資家や金融機関が消極的であったことから、DMOが主体となり投融資の仕組みづくりに注力**

- せとうちDMO内に、ファンドの運用を連携する体制を整備し、**「せとうち活性化ファンド（1号）」「せとうち観光サステナブルファンド（2号）」を組成**

- ファンド資金を活用することで、事業リスクへの対応が柔軟になり、**投資家や地域金融機関の呼び水効果**が発現

- ファンド（1号ファンド規模：98億円、2号規模：51億円）を活用し、**瀬戸内地域の観光振興に寄与する事業への投資**が行われている

せとうちDMO概念図



▲せとうちDMOの体制図



ハイエンドクルーズ船「ガンツウ」 国営公園内「グランピング施設」 中四国初「ヒルトン広島」

▲せとうちDMOの資金支援を受けて開発された事例